

5

事業の概況 (令和元年度)

(1) 事業実績

①貯金業務

会員ＪＡおよびその他の取引先から貯金を受け入れた結果、貯金は期末残高 1兆4,638億円、期中479億円の増加で、対前年比プラス3.3%となりました。



②融資業務

農林系金融機関および地域金融機関として、農業者や農業関連企業、地場産業を支える県内企業に対し取引拡大に努めたほか、金融機関向け貸出やシンジケートローン等に積極的に取り組みました。

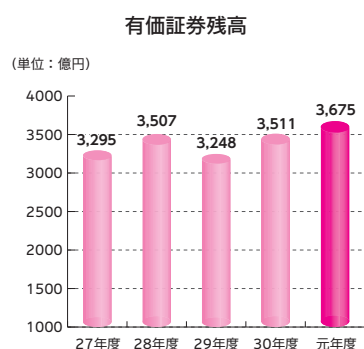


この結果、貸出金は期末残高 1,322 億円、期中 50 億円の増加で、対前年比プラス 3.9%となりました。

③余裕金運用業務

安全性や流動性、金利動向等を勘案のうえ、国債等を中心とした安全資産への投資を行う一方、価格変動リスクや為替変動リスクに留意しつつ、株式や外貨建外債等への投資も行いました。

この結果、有価証券は期末残高 3,675 億円、期中 164 億円の増加で、対前年比プラス 4.6%となりました。



④ JA推進支援業務

「JAバンク滋賀中期戦略（令和元年～3年度）」の初年度として、利用者や地域に寄りそう金融機関を目指し、農業融資を始めとした貸出金、年金、JAカード等を中心に複合取引によるメイン化を進めました。特に主力の住宅ローンを中心としたJAバンクローン残高の伸長は、持続的な経営基盤の強化を図るため、重点目標に掲げ県内16JAが一体的な取組みを行いました。

この結果、県内のJA個人貯金は、期末残高1兆4,670億円、期中227億円増加で、対前年比プラス1.6%となり、またJA個人貸出金は、期末残高1,841億円、期中73億円増加で、対前年比プラス4.2%となりました。

また、農業メインバンクとして、担い手の農業所得増大を図るべく、「JAバンク滋賀農業近代化資金2019」等の県内JAにおける推進に注力しました。

この結果、県内JA農業融資期末残高は83億円、期中7億円の増加で対前年比プラス9.5%となりました。

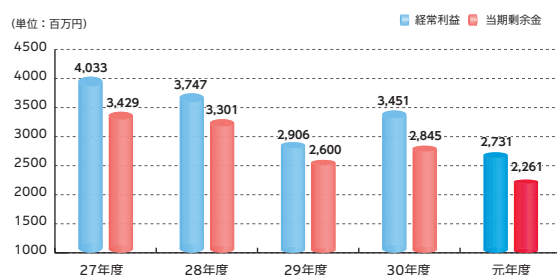
⑤ 為替・決済業務

JA 組合員等利用者への決済サービスの安全かつ円滑な提供に向けて、日々、決済リスクを適正に管理しつつ決済システムを円滑に運営するとともに、JA に対する現金の安定供給に努めました。

この結果、内国為替取扱高は（仕向）238千件、9,944億円、（被仕向）1,627千件、1兆1,846億円、手形交換取扱高は（持出）3千件、80億円、（持帰）2千件、84億円、現金供給高は2,479億円となりました。

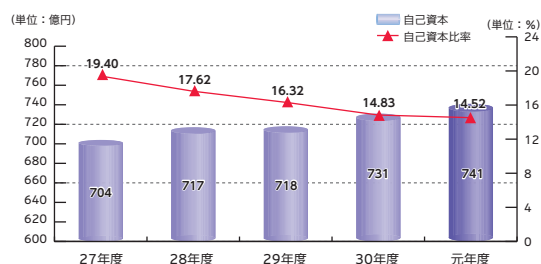
(2) 損益の状況

低金利環境が続くなか、利息収入を中心とした運用に加え、有価証券の売買により収益を確保した結果、経常利益は27億31百万円、当期剰余金は22億61百万円となりました。



(3) 自己資本の状況

内部留保の積み上げによる自己資本の増強に努めたものの、リスクアセット額が増加したことから、バーゼルⅢ国内規制に基づく自己資本比率は対前年比0.31ポイント低下し、14.52%となりました。



なお、当会の自己資本比率は、国内基準（4%）、国際基準（8%）を上回り、健全な内容となっています。